



秋田大学 大学間国際交流協定の締結について

2025年2月～2025年7月までに、秋田大学では新たに1大学との間で大学間国際交流協定を締結しました。

【学術交流協定】を締結
韓国 韓国海洋大学 締結日：2025年2月5日



マルチリンガル・カフェ（韓国語）

2025年6月13日（金）に「韓国語カフェ」が開催され、18名が参加しました。本イベントは異なる言語を学ぶ学習者がグループになりお互いの母語を教え合う「タンデム学習プログラム」の一環として開催されました。韓国産のともろこし茶や烏龍茶を試飲しながら、韓国の文化紹介や会話練習、グループアクティビティを行い、相互理解と親睦を深めました。



特別聴講学生 キム・ジェヒョン

まず、韓国語カフェという交流の場を作ってくださった方々に感謝の言葉を申し上げます。私にとって日本という他地で韓国語カフェに参加するようになったことはとても有意義な経験でした。韓国語と韓国の文化に関心がある多くの日本人の方々と直接疎通しながら、言語だけでなくお互いの文化を自然に分かることができた点が印象深かったです。参加者たちが積極的に質問して対話を続けようとする姿と熱心にゲームに参加する姿から韓国に対する情熱と関心を感じることができ、私もやはり韓国語母語話者としてやりがいを感じました。これからもこのような交流の場が度々設けられるといいなと思いました。

Campus Culture Connect Cafe

2025年7月11日（金）、留学生ボランティアが自国の文化紹介やレクリエーションを企画・運営する「Campus Culture Connect Cafe」を開催しました。

当日は地域・文化ごとのブースを設け、留学生自作のラップによる音楽パフォーマンスや伝統衣装の試着体験、ワークショップなどを自由に楽しめる交流の場を提供しました。日本人学生19名、留学生20名が参加し、大盛況となりました。参加した学生からは「異文化に触れるのがとても楽しく貴重な経験だった」「今後も参加したい」といった感想が寄せられました。



留学体験記

ルレオ工科大学 国際資源学部 4年次 山田 真滉

私は現在、スウェーデン北部にあるルレオ工科大学に交換留学しています。1月の到着時は、朝8時でも真っ暗で、気温はマイナス20度。凍てつく道を友人と歩いた日々が嘘のように、今では日照時間が20時間を超え、真っ暗な夜が少し恋しく感じるほどです。

留学前は「オーロラ」のイメージが強かったスウェーデンですが、実際に来てみて印象に残ったのは、自然と共に生き、それを楽しむ文化でした。春には外でランチをとったり、休日はハイキングに出かけたりなど、自然を暮らしに取り込む姿勢に刺激を受けました。



大学には日本人が私一人だったこともあり、苦勞することも多くありましたが、その分さまざまな国籍の友人ができました。マイノリティとして生活する経験は、日本では得がたい貴重な体験でした。

1学期目は、環境に関する講義のほか、チームビルディングやスウェーデン語の授業も履修しました。授業では、完璧さよりも「自分の意見を持つこと」が重視され、教授との1対1の口頭試験も経験しました。緊張しましたが、双方向の授業やテスト形式は理解を深める仕組みだと実感しました。英語で自分の考えをまとめ、相手に伝えるのは簡単ではありませんが、「まずは伝えてみる」という姿勢を大切に、自分の頭で考えることを怠らずにいたいと思います。

令和6年度 秋田大学 教養基礎教育優秀授業奨励賞

高等教育グローバルセンターでは、教養基礎教育科目の授業評価（総括的）において、学生からの評価が特に高い教員を、優秀授業奨励賞受賞者として年に1度表彰しています。

令和6年度 秋田大学教養基礎教育優秀授業奨励賞を受賞された3名の先生方に「授業における工夫」、「授業の狙い・考え方」、「学生に対する思い」を授業の概要とともに伺いました。

🗨️教育文化学部 准教授 若有 保彦

私の担当する大学英語Ⅲ（現大学英語Ⅴ）は、理工学部（現総合環境理工学部）の2年生を対象とした授業です。授業では、各Unitのまとめの時間で、題材に関するプレゼンテーションを行っていますが、その際の工夫として、同じ内容を相手を代えて発表させる活動を取り入れています。これは、発表の機会を複数回持つことで自分の上達を実感できること、また普段の授業では一緒に活動する機会の少ない相手を対象にすることで、緊張感を持って発表に取り組めるメリットがあると考えています。また、コースの最後に教科書からUnitを1つ選び、教員に対してその概要を発表し、その後に質疑応答を行うスピーキングテストを実施しています。これらの活動を通して、学生が将来学会発表を英語で行うことへの抵抗感を少しでも減らしていければと思っています。

🗨️教育文化学部 准教授 渡邊 和仁

私が担当している「スポーツ実技Ⅰ」では、生涯にわたってスポーツに親しむための実践的能力を養うため、学生はそれぞれの選択種目に関する知識や基礎的技能を実技形式で学習しています。

この授業では、スポーツの知識や技能を習得するだけでなく、互いに協力しながら自分も仲間も一緒に楽しむことや、自己の課題に向かって挑戦することにも価値を置き、学生が自発的に学べるような雰囲気づくりを心がけています。中には運動があまり得意でない学生もいますが、失敗を恐れずに積極的に取り組んでいる様子が見られます。学生には、この授業を通して多くの成功体験をしてもらい、人間的に成長する機会にしてもらえればと考えています。

🗨️教職課程・キャリア支援センター 講師 野村 駿

私が担当した授業は、「現代社会と教育Ⅰ/Ⅱ」（1年生）と「教育学Ⅰ」（2年生以上）です。本授業では、主に教育社会学の立場から、教育のあり方をさまざまな社会システムとの関連で捉えて分析する視点を、いくつかの具体的なトピックを取り上げて提示しました。

教育は誰もが経験するものです。ゆえに、その経験に基づいて容易に語られやすい性質を持ちます。しかし、ともすると自身の経験を過大視しがちで、その経験の及ばない部分について知る必要性すら感知されていない場合が少なくありません。本授業では、そうした偏りを示して、教育をさまざまな角度から視たり考えたりする方法を、学術的な理論や知見をベースに習得することを目指しました。

新任教員の就任挨拶



高等教育グローバルセンター
助教 吉澤 孝幸

本年度4月より高等教育グローバルセンターの助教として勤務しております、吉澤孝幸と申します。

中等英語教育や僅かながらも英語教育政策に携わってきたこともあり、実際の教室における指導の在り方と、それを支える理論の往還に関心があります。普遍文法に基づく指導よりも、経験主義と言える用法基盤モデルに基づく指導を取り入れた指導の効果を調査しております。

また、理工学部の子生のための「大学英語V」では、TOEICセミナーを担当しております。

このコースでは、TOEICのスコアアップと共に、それぞれの学生が英語を通じて理工の専門知識を生かすという、将来の職能成長につながるような英語の自律的な学び方についてもテーマにしております。

どうぞよろしくお願ひいたします。



↑録音はこちらから
ご確認ください



高等教育グローバルセンター
助教 百川 佐良良

比較文学・日本思想などを中心に研究をしております。特に日本社会の「もののあわれ」により支えあう共同体に興味を持っています。

研究に行き詰った際はピアノを弾いて気分転換を図っています。何曲か録音したものをYouTubeに載せているので、是非お聴きください。



秋田大学
国際交流関連データ

■国際交流協定校数（2025年5月1日現在）
大学間協定（37か国・地域79大学・機関）
部局間協定（26か国・地域50学部等）

■留学生数（2025年5月1日現在）
学部生 129名
大学院生 95名
交換留学生・研究生等 29名
合計 253名



編集・発行：

国立大学法人 秋田大学 高等教育グローバルセンター

連絡先：国際課（国際交流部門事務担当）

TEL：018-889-2870 E-MAIL：kokusai@jimu.akita-u.ac.jp

総合学務課（教育活動部門・教育開発部門事務担当）

TEL：018-889-3191 E-MAIL：kyomusom@jimu.akita-u.ac.jp